

令和5年度 事業報告書

(事業年度：令和5年4月1日から令和6年3月31日)

1. アルペンスキーチーム

(1) 事業内容

■選手強化事業

国内合宿：	15回
海外合宿：	1回

■体制整備事業

強化会議：	3回
メディカルチェック：	0回
タレント発掘・育成：	0回
JPC 等会議出席	0回
その他：	0回

■DX 化促進事業	4回
-----------	----

(2) 事業の成果

① 聴者チームと合同トレーニングによる競技力向上

国内トップクラスの選手が所属しているチームと合同トレーニングを数回実施した。これにより、選手の競技力向上のみならず、彼らと積極的に意見交換することで、チームとしての競技力向上に必要な情報を収集できた。他選手の練習方法、マテリアル調整など、競技に対する意識を高めることができた。また国内トップクラスの選手が出場するレースに参加し、タイム差を縮める・順位を上げることができた。

② スカイツェックマシンを使ったオフ期間の滑走フォーム作り (DX 事業)

スカイツェックマシンによる VR トレーニングを取り入れることにより、滑走フォームをコーチの指導の下、フォームを矯正しながら徐々に理想的な滑走フォームに修正できた。また、1回5分間のターンをこなすことの繰り返しで、体に染みついた滑走フォームにしていき、雪上ゲートトレーニングへスムーズに移行することができた。

③ デフリンピック事前合宿 (海外強化合宿)

デフリンピック直前に、デフリンピック競技会場となる現地で事前強化合宿を実施した。デフリンピック競技会場は標高が 2,300~2,600m と高く、高山病のリスクがあり、デフリンピック直前に現地で生活をこなすなどの高度順応化を図った。また、デフリンピックでベストのパフォーマンスを発揮すべく、大会開催の1週間前に現地へ移動し、軽いゲートトレーニングを実施、デフリンピックに照準を合わせたコンディション作りを行った。結果として、デフリンピック競技大会で選手2人合計銀メダル3個を獲得することができた。

(3) 事業に対する評価

① 聴者チームと合同トレーニングによる競技力向上

国内トップクラスの選手が所属しているチームと合同トレーニングの効果により、選手の技術が著しく向上しました。国内トップクラス選手の競技タイム差を各選手と比較することで、定量的な評価を行うことができた。各選手の競技力向上につながったと考えている。また、合同トレーニングを通じて収集できた情報や知識が、各選手の競技力向上に貢献し、国内トップクラス選手のトレーニング内容や競技に取り組む姿勢などを理解することができた。合同トレーニングは、時間と費用面で効率的に実現できるため、来年以降も継続的に実施していく予定です。

② スカイツックを使ったオフ期間の滑走フォーム確認

スカイツックを使用したトレーニングでは、コーチやスタッフが選手の滑走フォームを評価した。さらに、スカイツックを活用したトレーニングは、選手が繰り返し体に染み込むような滑走フォームを獲得するのに非常に役立った。選手が雪上ゲートトレーニングへの移行をスムーズに行えた。得られるメリットが非常に大きく、来年度も継続的に実施していくことを考えている。

③ デフリンピック事前合宿

デフリンピック直前の事前強化合宿（高地合宿）では、選手・スタッフが高地環境に適応できるよう、雪上ゲートトレーニングやコンディショントレーニングを中心に行い、現地での生活にも慣れるよう配慮した。デフリンピック大会に体調管理やパフォーマンスを引き出し、デフリンピック大会での出場選手2人が3つの銀メダルを獲得するなど、成果を出せた。これは、事前強化合宿の効果を示すものであり、選手の努力と合宿計画内容の質の高さを評価できる。

(4) 課題と今後の取り組み

【課題】

2027年冬季デフリンピックを見据えたタレント育成選手の発掘、育成

【取組方法】

小学生からアルペンスキーのトレーニング・インターハイ東京都予選出場等に励んでいる高校生の聴覚障がい者選手が入会した。2024年3月のデフリンピック出場は諸事情で見送り、2027年デフリンピックに向けてのカリキュラムを説明、選手と保護者と面談を行い、強化指定選手としての適性を評価した。

【成果】

対象選手は高校生であり競技力は関東高等学校スキー大会2年連続出場とのレベルで、2027年冬季デフリンピック出場に向けて計画し、チームへの入会を許可した。彼は強化指定選手として7月からチームの合宿に参加した。ジャパンパラ大会の入賞ができる技術まで成長した。

2. アルペンスノーボードチーム

(1) 事業内容

■選手強化事業

国内合宿： 8回

海外合宿： 2回

■体制整備事業

強化会議： 1回

メディカルチェック： 1回

タレント発掘・育成： 1回

JPC等会議出席 2回

その他： 1回

■DX化促進事業 6回

(2) 事業の成果

① 聴者チームと合同トレーニングによる競技力向上

昨年度に引き続き、野藤コーチ（チーム専属ヘッドコーチ）に所属している国内トップクラスの選手と合同トレーニングを数回実施した。これにより、選手の競技力向上のみならず、彼らと積極的に意見交換することで、チームとしての競技力向上に必要な情報を収集できた。例えば、国内トップクラスの選手の練習方法、メンタル取り組み方法、マテリアル調整方法など、トップ選手の競技に対する工夫を学ぶことができた。

② スカイツェックマシンを使ったオフシーズン中の滑走フォーム作り

DX事業では、昨年度に引き続きスカイツェックマシンによるVRトレーニングを取り入れることにより、昨年度の悪い滑走フォームをコーチの指導の下、フォームを矯正しながら徐々に理想的な滑走フォームに修正できた。また、数万回ターンをこなすことで、体に染みついた自動化された滑走フォームにしていくことで、11月のオンシーズン中に実践的な雪上ゲート練習へスムーズに移行することができた。

③ デフリンピック事前合宿

デフリンピック直前に、現地で事前強化合宿を実施した。デフリンピック競技会場は標高が2,300～2,600mと高いため、高山病のリスクがあった。そのため、デフリンピック直前に高地生活を経験し、体を慣らす必要があった。また、デフリンピックで最高のパフォーマンスを発揮するため、1週間ほど前に現地入りして軽いゲート練習を行い、デフリンピックに照準を合わせたコンディション調整を行った。結果として、デフリンピック本番で全員が入賞し、銅メダル2個を獲得することができた。

(3) 事業に対する評価事業に対する評価

① 聴者チームと合同トレーニングによる競技力向上

合同トレーニングの効果により、当チームの選手の技術やスキルが著しく向上したと感じている。具体的には、国内トップクラス選手の競技力の測定や個別トレーニング方法を当チームと比較することで、定量的な評価を行うことができたことがあげられる。これらの方法により、当チームの全体競技力（パフォーマンス）向上につながったと考えている。また、今回の合同トレーニングを通じて収集できた情報や知識が、当チームの競技力向上に貢献したと感じている。具体的には、国内トップクラス選手のトレーニング方法や競技に取り組む姿勢などを分析し、彼らの競技力にどのような影響を及ぼすかも把握することができたことがあげられる。今回の合同トレーニングは、得られるメリットが非常に大きいため、来年度も継続的に実施していきたい。

② スカイツェックマシンを使ったオフシーズン中の滑走フォーム作り

スカイツェックマシンを使用したトレーニングでは、コーチや映像分析スタッフが選手の滑走フォームを評価する際に、観察だけでなく「Dartfish」という動画分析ソフトを活用した。この方法により、フォームの変化や向上度を数値化することで、感性的な側面も含めて評価することができたと思う。さらに、スカイツェックマシンを活用したトレーニングは、選手が繰り返し体に染み込むような滑走フォームを獲得するのに非常に役立ったと思う。その結果、シーズン入りには、選手たちが実践的な雪上ゲート練習への移行をスムーズに行うことができたと感じている。当チームはスカイツェックマシンの効果を再認識し、他チームへ情報提供することで協会全体のトレーニングプログラムの改善や選手の成長に活かしたいと考えている。

③ デフリンピック事前合宿

デフリンピック直前の事前強化合宿（高地合宿）では、選手たちが高地環境に適応できるよう、現地での生活にも慣れるよう配慮した。そして、雪上のゲートトレーニングやコンディション調整を中心に行った。さらに、選手

たちは高地での滑走に慣れるためのトレーニングを積み重ね、デフリンピック本番にピーキングを合わせられるよう体調やパフォーマンスの最適化を行った。その結果、デフリンピック本番での出場選手全員が入賞し、さらに2つの銅メダルを獲得するなど、大きな効果を出すことができたと思う。この成果は、事前強化合宿の効果を示すものであり、選手たちの努力、そして合宿プログラムの質の高さを評価したいと思う。

(3) 課題と今後の取り組み

【課題】

2027年度冬季デフリンピックを見据えたタレント育成選手の発掘、育成

【取組方法】

今年度は、2022年3月に実施されたSAJジュニアスノーボード選手権大会に中学生の聴覚障がい者選手が参加したという噂を耳にし、その選手と保護者に接触し名刺を交換しました。4月に入ってその選手の保護者からデフリンピックについて詳細な情報を求めるコンタクトがありました。その後に選手と保護者と面談を行い、強化指定選手としての適性を評価しました。

【成果】

対象選手はまだ中学生であり競技力は未知数でした。しかし、彼女のデフリンピックへの強い意欲と競技歴、練習内容から2024年冬季デフリンピックに間に合うと判断し、チームへの入会を許可しました。彼女はジュニア強化指定選手としてチームの合宿に参加し、その成績は目覚ましいものでした。その取り組みの成果もあって、彼女は2024年冬季デフリンピックPSL/PGS競技で2つの銅メダルを獲得することができました。

3. スノーボードフリースタイルチーム

(1) 事業内容

■選手強化事業

国内合宿：	18回
海外合宿：	0回

■体制整備事業

強化会議：	0回
メディカルチェック：	1回
タレント発掘・育成：	0回
その他：	1回

(2) 事業の成果

- ① 令和4年度に引き続き令和5年度も新しいオンラインを活用し選手強化活動事業を実施した。オフシーズンである5月～12月は各選手がデフリンピック出場に向けて、人工芝のジャンプ練習施設や屋内ハーフパイプにて練習をし、より完成度の高い回転の技などの技術の獲得に向け練習に励んだ。
- ② 2024年冬季デフリンピックのスロープスタイルの中止決定を受け、それまでの練習メニューから一転、バンクドスラロームに練習メニューを変更して練習を実施。開催3週間前の競技中止は、これまで練習に励んできた選手にとって相当きついものであったが、JSBA大会（健常者がプロ資格を取るための大会）に参加し、今後の大会開催も視野に練習や大会への出場を積極的に続けていくなど、さらなる高みを見据えて練習に励んだ。その結果、第20回トルコ冬季デフリンピックではバンクドスラローム男子：小野田瑛次選手が6位、中瀬伸泰選手が9位、女子：小西玲桜選手5位、花島良子選手が6位入賞となった。
- ③ ケガを抱えている選手が多く、フィジカルの重要性を再確認することによりケガに負けない体づくりを行った。トレーナーによるアドバイスや食事の見直しなどについて選手の意識改革にも注力した。トレーニングや体力測定を年2回実施し、トレーニングでは自分の足りない面を確認した。体力測定では全体的に体力と下半身筋力が課題となっている。

(3) 事業に対する評価

① オンライン強化合宿

オフシーズンであっても回転技などの練習を中心に基礎から難易度の高い大技まで完成度を上げるべく練習する時間を設けられたのは非常によかった。また動画を見ながらリアルタイムにコーチからのアドバイスを受けることもでき、リアルタイムでの練習は効果があった。

② 各選手の競技に対する意識向上

強化合宿で各選手の課題や意識向上のためにコーチやスタッフを中心に新しい試みを加えつつ、選手のヒヤリングを行いながらこれまでよりもチームの練習の幅を広げることができた。そのおかげで何をすべきか明確にわかるようになり、ただ滑るだけでなく考えながら滑ることを意識するようになった。

③ タレント発掘の強化

今回はデフリンピック開催ということもあり、注目されていたため、若手発掘事業を行い全国各地で多くの聴覚障がい児、及びその保護者と関わる機会を持っていくことが必要と感じている。チーム内での新たな競争もうまれ、よりチームがメダル獲得に向け切磋琢磨していく好循環を生むことができると期待している。そのため啓発、発掘に力を入れて行くことが今後の課題だと感じている。引き続き発掘に力を入れていきたい。

(4) 課題と今後の取り組み

【課題】

タレント育成選手の発掘、育成

【取組方法】

- ① 今後もスカウト活動を継続。具体的には、SNS 等を通して体験合宿の PR を行う等選手募集の宣伝機会を増やす。
- ② 地元の聴覚障がい者連盟と交渉し、スノーボード教室の企画を立てていく。

4. カーリングチーム

(1) 事業内容

■選手強化事業

国内合宿：	13 回
海外合宿：	0 回

■体制整備事業

強化会議：	3 回
メディカルチェック：	1 回
タレント発掘・育成：	0 回
その他：	1 回

■DX 化促進事業	10 回
-----------	------

(2) 事業の成果

- ① R 5 年度の最大の事業成果は、冬季デフリンピック カーリングミックスダブルス競技での銅メダル受賞である。加えて 4 人制競技においても男女ともに派遣できたことである。
- ② 「選手強化活動事業」である国内強化合宿は前年度に比して実施回数は減少した。事業費の減額が理由として考えられる。しかし、強化指定選手と強化スタッフの入れ替わりがあった中で、大きな事故や怪我もなく無事に

R5年度を終えることができたのは事業の成果と考える。また、実績のあるコーチを招聘できたことも成果の一つである。

- ③ 「強化活動のDX化促進支援事業」は、日本カーリング協会理事を主任講師としてを招聘し、強化指定選手がデフカーリングではない戦略やルールを学ぶ上で、強化合宿以外にオンラインで集まることができた。

(3) 事業に対する評価

- ① 「体制整備事業」について強化スタッフに変更があり前任者と十分な連携が取れなかったことは反省すべき点である。
- ② 「選手強化活動事業」「強化活動のDX化促進支援事業」については、実績のあるコーチや講師を招聘できたことは評価すべき点である。反省すべき点は、選手のコンディションにばらつきがあり実力にも差があった為、強化合宿以外の活動もチームとして介入していくべきであった。次年度の課題とする。
- ③ 海外強化合宿を実施せずデフリンピックに選手を派遣してしまった。海外カーリング場のアイスシートや食事生活などがわからない状況のまま派遣したが、国際大会へ出場した経験のあるコーチを招聘できたことは評価できると考える。海外手話通訳の実績ある通訳者も派遣できた。しかし、デフリンピック前に海外選手の情報を十分に得ることができなかった。

(4) 課題と今後の取り組み

- ① 強化指定選手や強化スタッフの発掘・育成
来年度も引き続き、世界選手権やデフリンピックに向けて選手や選手を支援するスタッフなどのメンバーを拡大していく。そのためには、カーリングを体験できる教室開催やデフリンピック出場選手を派遣し講演を通して積極的に勧誘していきたい。
- ② 日本カーリング協会との関り
デフカーリングのアスリート育成は、デフスポーツの中では充分に行えないため、日本カーリング協会の各委員会の委員と良い関係性を保ちながらデフカーリング選手の育成、チームの体制整備を行う。